

平成29年度 防衛大学校卒業式
来賓代表祝辞

本日、防衛大学校の卒業式で来賓代表としてご挨拶させていただいたことを大変光栄に思います。62期の卒業生諸君に心よりお祝い申し上げます。また、本日もご列席のご両親・ご家族の方々に、心からお喜びを申し上げます。

卒業生諸君は、レベルの高いかつ厳しい教育課程を終えて、これから日本という国家の安全を守る自衛隊の幹部自衛官として大変な重責を担うこととなります。

本日の卒業式をもって、防衛大学校での教育は終わりますが、自衛官としての責任を果たすため、また、これから日本が歩むべき道を考えるため、世界の政治、経済、安全保障上の目まぐるしい変化を絶えず視野に入れて、これからも勉強を続けてください。

大きく揺らいでいる国際秩序、特にインド太平洋地域の複雑で流動的な国際環境をよく見極めて、これから日本の安全を確保するために取るべき道を考えることが重要であります。インド太平洋の国々がますます繁栄する可能性はある一方、この地域の地政学的リスクは一層高まることも予想されます。

インド太平洋地域は宗教的にも、文化的にも、あるいは政治体制においても多種多様であります。日本のような民主主義国もあれば独裁体制が強まりつつある中国や全体主義王国の北朝鮮もあります。また、民主主義と非民主主義という価値観の競争が強まって、この地域において一つの不安定要因になります。

世界の核兵器を持つ九つの国のうち六つはこの地域にあります。アメリカが日本や韓国と共にかつてないほど厳しい北朝鮮への制裁を実行し、中国の協力も得て、北朝鮮にとって耐えられなくなる圧力をかけた結果、北朝鮮が非核化へ向かう可能性はでてきました。ただ、その期待が裏切られる危険性があるだけでなく、実際に非核化の方向へ向かったとしても、実現するまでには大変時間がかかります。その間のリスクは依然として残ります。

東アジアは地域ではありますが、コミュニティにはまだなっていません。地域内諸国間の信用度が極めて低い。領土問題もあります。アジアには多くの国際組織がありますが、NATOのような組織はありません。東アジアの安全保障体制は米国と日本、韓国、オーストラリア、フィリピンとの同盟関係によるものであ

ります。

冷戦時代の二極体制が崩壊して、もうおよそ30年が経ちました。世界秩序が混迷状態に陥っています。誤算、誤解、軍事衝突の危険が増しています。日米同盟を堅持し、ルールに基づいた国際政治経済秩序を維持するために、日本がこれまで以上に大きな役割を果たすことを期待します。

インド太平洋地域は、今後ますます世界経済の重心の位置を占めるようになります。2030年までには、中国は世界の最大の経済大国になると予測されています。2050年になると、世界のGDPトップファイブはすべてこの地域の国々になります。すなわち、中国、米国、インド、日本、そしてインドネシアです。繁栄の可能性を高める一方、安全保障上のリスクを下げるのがこれからますます重要な課題になります。それに関連して強調したいのは日米関係の重要性であります。約70年前、冷戦が始まって間もない頃に日米同盟が結ばれました。あの頃の日本の実態と国際体制は今とは著しく異なっています。にもかかわらず日米同盟の重要性は減っていません。東アジアにおけるアメリカのプレゼンスと日米同盟なしでは、この地域はカオスに陥るでしょう。日米同盟の維持と日本のより大きな国際貢献は、地域の平和と繁栄のための不可欠なものであります。

これから諸君は、日本の自衛官として、アメリカの軍人と接触することがあるうと思います。諸君の中には何人か米国に住む機会を得る者もいるでしょう。もしかしたらコロンビア大学院に留学するチャンスがあるかもしれません。これまでも自衛隊や防衛省から派遣された優秀な留学生が私の授業を受けてきました。ご縁がありましたらコロンビア大学は皆さんを大変歓迎します。

そうゆうことがあってもなくても、ぜひ世界共通の言語である英語の勉強を続けてください。英語でコミュニケーションができることはますます重要です。また、英語だけではなくて韓国語、中国語、フランス語など、他の言語を知ることによって他の国の文化や考え方をより理解し、また、自分の視野が広がり、物事を違う視点から見ることができるようになります。

最後になりますが、本日卒業する留学生諸君に一言申し上げます。諸君は防衛大学校で日本人学生よりも長い5年間を過ごしました。日本人学生と同じ寮に住んで1年間の日本語の研修生期間を終えた後、日本人学生と全く同じ4年間のカリキュラムで勉強して卒業を迎えました。素晴らしいことです。日本の他の

大学は、防衛大学校の例に習うべきだと私は思います。日本の大学に留学する学生の多くが、今日卒業する防衛大学校留学生のように流暢な日本語を身に付けることなく、日本社会に溶け込むこともないまま帰国してしまうのを大変残念に思います。文部科学省は、海外からの留学生が日本の大学で勉強する以上、ある程度日本語を習得することを卒業の必要条件にすることを検討すべきだと思います。というのは、日本と日本語について中途半端な知識しか持たずに帰国すると、防衛大学校を卒業する外国人のように彼らの母国と日本の架け橋になれません。

卒業生諸君、今日はみなさんのチャレンジの多い旅立ちの日です。自国の安全、そして国際平和に寄与するという重い責任を伴う旅なのです。みなさんには、この大きな挑戦に立ち向かうだけの準備が、この防衛大学校で出来ました。これからの諸君の成功を心から祈念して、私からのお祝いの言葉を終わらせていただきます。

平成30年3月18日

コロンビア大学名誉教授 ジェラルド・L・カーティス